

わたしたちの 多職種連携を考える

-それぞれの職種が思う“連携”の意味を再考する-

SNSを眺めていると、“多職種連携”、“協働”、“つながる”、“顔の見える関係”などをテーマにした研修会や地域イベントを目にします。その多くは医療福祉の施設や団体が主催しています。「利用者さんのためにみんなで連携しましょう！ 医療福祉を良くするには連携が大切ですよね！ 安心して暮らせるまちをつくりましょう！」みなさんも、こんなキーワードが並ぶ研修会などに参加したことがあるのではないのでしょうか。誰と誰が、どんな目的で連携をして、何をしたいのか。具体的なイメージがないまま、“多職種連携”、“協働”、“つながる”、“顔の見える関係”など、使い勝手の良い言葉の力に任せて、なんとなく“連携”や“つながる”という言葉を使い、実践していませんか？

この研修では、「そもそも、“連携”ってどういうことなんだろう」、「連携をすることで何を実現したいのか」、そんな事をみんなで話し合いながら、それぞれが考えている“連携”対しての価値観の共有が出来ればと思っています。研修後には、皆さん一人一人が“連携”という言葉に意味付けをして、翌日からのケアに活かしていただきたいと思います。

講師プロフィール 糟谷明範 Akinori Kasuya

株式会社シンクハピネス 代表取締役/一般社団法人CancerX 理事
立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科/理学療法士

2006年に理学療法士免許取得後、病院、訪問看護ステーションを経て、2014年に株式会社シンクハピネスを創業。東京都府中市で“いまのしあわせをつくる”を理念に、LIC訪問看護リハビリステーション（訪問看護）、life design village FLAT（居宅介護支援）、FLAT STAND（カフェ）、タマレ（地域コミュニティ）を運営。医療福祉と暮らしの視点からまちづくりに奮闘中。

